

2 都市の骨格構造

都市の骨格構造は、公共交通などによる交通の便が良く、人口や都市機能施設が集積している地域を「中心拠点」、「地域拠点」、「生活拠点」と設定し、これらの拠点を結ぶネットワークとして、骨格道路や公共交通軸を設定するものです。

さらに、鶴ヶ島市独自の都市構造を踏まえ、本市の中心に位置し、公共交通軸（バスなど）の結節点でもある市役所周辺を「行政拠点」、本市の産業をけん引する圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺を「産業拠点」とします。これらの拠点をネットワークで結び、まち全体の活力を維持していくことを、鶴ヶ島市の骨格構造の要とします。

●3つの住宅地を支える拠点

3つの住宅地の中心である若葉駅、鶴ヶ島駅、一本松駅周辺に、それぞれの地域特性を活かした拠点を設定します。

[若葉駅：中心拠点]

大規模商業施設など、業務・商業機能などの集積があり、高次の都市機能を提供する若葉駅周辺を中心拠点とします。

[鶴ヶ島駅：地域拠点]

スーパーなどの業務・商業機能などが集積し、今後、産業拠点への通勤者の利用増加が想定される鶴ヶ島駅周辺を地域拠点とします。

[一本松駅：生活拠点]

土地区画整理事業により整備された、良好な住宅地などの日常生活を支える拠点として、若葉駅や坂戸駅への移動が容易な一本松駅周辺を生活拠点とします。

●行政拠点

・鶴ヶ島市の中心に位置し、周辺に既存の公共公益機能が集積し、また、公共交通の結節点となっている市役所周辺を、行政サービスを担う行政拠点とします。

●産業拠点

・埼玉県をけん引していく産業団地の整備が進む「農業大学校跡地」を含む圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺を産業拠点とします。

(注釈)

・中心拠点

サービス水準の高い基幹的な公共交通の結節点として、市内各所から基幹的公共交通などを介して容易にアクセス可能な地域で、かつ、人口密度が高く、各種の都市機能が集積する地域

・地域拠点

周辺から容易にアクセスが可能な地域で、かつ、中心拠点における都市機能を補完するとともに、周辺と比較して人口密度が高く、小売機能などの周辺地域の生活を担う都市機能が集積する地域

・生活拠点

徒歩や自転車など、近隣からのアクセスが可能な地域で、かつ、近隣の日常生活を支える都市機能が集積する地域

●ネットワーク

[骨格道路]

- ・関越自動車道（以下、関越道）、首都圏中央連絡自動車道（以下、圏央道）は、広域交通を担う骨格道路（高速道路）とします。
- ・各拠点を連絡し、また、市内や市外との交通を担う国道 407 号や都市計画道路などを骨格道路（一般道路）とします。

[公共交通軸（鉄道・バスなど）]

- ・公共交通（鉄道、つるバスなど）による市内の移動や、市外への移動のしやすさを確保するための公共交通路線を公共交通軸とします。
- ・東武東上線、東武越生線を「公共交通軸（鉄道）」とします。
- ・市役所や駅など各拠点の中心となる施設を結び、また、沿道の利便性を高めるつるバスなどの路線を「公共交通軸（バスなど）」とします。このうち、中心拠点—行政拠点—産業拠点、地域拠点—産業拠点を結ぶ路線を、「基幹的な公共交通軸（バスなど）」とし、公共交通の利便性確保に努めます。
- ・「公共交通軸（バスなど）」は、つるバスなどが実際に走る道路（今後整備が予定される道路を含む）を踏まえて設定するとともに、利便性の維持向上のため関係機関との調整を図るものとします。

■骨格構造図

